

「南大沢駅周辺地区まちづくり方針策定等検討委員会（第3回）の事前調整会議」 議事要旨

※ 当日の順序に沿って、主な発言の要旨を掲載

■ まちづくり方針策定のスケジュールについて

[事務局]

- 本事前調整会議は、2月18日に開催を予定している第3回検討委員会に向け、まちづくりの方向性の論点についてあらかじめご確認いただき、ご意見をいただくことを目的としている。第2回検討委員会開催後、新型コロナウイルス感染症拡大の影響から、まちづくりの前提となる社会経済状況等の変化が生じており、策定スケジュールも予定より遅れている中、第3回検討委員会を円滑に進められるよう、事前調整会議を設定した。
- 第2回検討委員会で議論していただいた、「まちづくり方針の方向性等の概要」は、新型コロナウイルス感染症への対応が反映されていない。そのため、商業デベロッパーの方々へ、アフターコロナの商業環境等についてヒアリングを行い、各委員の皆さまへアフターコロナを踏まえたまちづくりの方向性についてヒアリングを行い、また地元の方々へは、今後のまちづくりに関する声の募集を行った。
本会議では、策定スケジュールと国のコロナ後の施策、今年度改定予定の都の都市計画区域マスタープラン、それと各ヒアリングで出た意見等を反映した「まちづくり方針の方向性等概要（案）」について確認をいただきたい。
- それでは、スケジュールについて事務局から説明をお願いします。
- 方針策定のスケジュールについて、昨年2月開催の第2回検討委員会時点では、今年度の方針策定公表の予定となっていた。しかしコロナの影響から、まちづくりの前提となる社会経済状況に変化が生じ、その対応を行うため、スケジュールを見直すこととした。2月18日に第3回検討委員会を予定しており、そこで素案の策定を行い、その後、素案のパブリックコメントを行う。
続いて来年度の春に第4回検討委員会を開催し、パブリックコメントの結果の報告と案の策定を行い、その後、方針の最終版を策定、公表する。

■ まちづくりの方向性等 概要（案）について

[事務局]

- 第2回検討委員会で委員から出された意見を、資料⑧「まちづくり方針の方向性等概要（案）」に反映した。
- 「1）エリマネとか、ソフト的なことも将来像に入れてもらいたい」は、将来像の実現イメージの将来像3に、「エリアマネジメントによる多様な人々の新たな交流促進」を記載した。「2）南大沢駅から都立大に至る軸線の空間はバリアフリー・ユニバーサルデザインの整理が必要」は、将来像1に、「歩きやすく回遊性を高める空間の整備」を記載した。「3）ウォーカブル・歩きやすいを取り組みに入れたほうが良い」は、将来像1に、「歩きやすく」、「落ち着いた街並みの中で歩きたくなる空間の創出」を記載した。
- 商業デベロッパー数社にヒアリングを行った。主な意見は、「1）各社共通として、コロナ

- 後の商業施設の在り方について模索中である」、「2) 大型店舗やアウトレットは閉店したが、生活必需品を扱う小規模店舗は開店していた。ライフライン業態はコロナに強いと感じた」、「3) 商業施設は、『にぎわい』が必要であり、コロナ後も変わらない」、「4) 今後、ネット販売は必要であるが、リアル店舗も必要」、「5) コロナ後は密集しない状況の中で、どう集えるかを考える必要がある。リアル店舗へのデジタル・IT を使った入場制限などが必要」、「6) 働き方改革の在り方により、商業施設の在り方が変わってくる」とあった。
- 各委員にヒアリングを行った。主な意見は、「1) 『コロナにも対応した新しい働き方ができるまち』を方針に入れてもいい」、「2) 新しい働き方は今後も変わっていく。サテライトオフィスなど、『新しい働き方』を方針に入れてほしい」、「3) モビリティとサステナビリティは今後重要になる」、「4) 職住近接が加速し、5G が日常で使えるようになると、わざわざ都心に出なくても、八王子等の自然を楽しみながらゆったりと暮らすことが可能になる」、「5) アフターコロナよりも、『ポスト・コロナ』を重要視する。『ポスト・コロナ』のニーズは、気持ちのいい空間や憩い、自然との共生かと思う」、「6) 『にぎわい』ではなく、オープンスペース。なんとなく人が集まる、集いやすい場所・空間が必要」、「7) 『にぎわい』はまちづくりの観点から重要であったが、今は難しい。『憩う』と『にぎわい』は関連させられるか」、「8) 『新たな交流が生まれるまち』を取り組みの中から求められるように整理が必要」とあった。
 - 南大沢駅周辺地区の今後のまちづくりについて、住民等への意見募集を行った。主な意見は、「1) 商業施設やにぎわい、若い人が集まれる施設に入ってほしい。住宅、大型病院、ホームセンター、企業等ができるのは望まない」、「2) 生活に必要な施設（スーパー、公園など）がおおむねそろっているため、生活に不便を感じない。+αとして、直売でもよいし、IT×バイオテクノロジーのショーケースなどの野菜直売所の設置はどうか」、「3) サテライトオフィスを使うかは分からないが、飲食店とサテライトオフィスが併設されている施設であれば、魅力を感じる」、「4) 都立大とアウトレットモール等を含む施設が低層で統一されている景観と、いつも幅広い世代でにぎわい、活気があふれているところが大きな特徴でとても満足している」、「5) 外国人の留学生や研究者などの施設（住居など）を置くのはいいアイデア。地元住民との交流が生じることで、住民にも好影響である」、「6) 大学が近くに立地している利点をより生かせるとよいと思う。例えば、博物館やそれに併設される形で、学生の研究成果を発表するスペースを設置等」、「7) レクリエーション施設などの学生が楽しめる施設を入れることで、学生が集まり、駅前に活気が出ると考える」、「8) 一人乗りの電動の乗り物を導入すれば、駅までアクセスがよくなると思う」、「9) サ高住があれば、親を呼びたい。駅前にサ高住があれば、たまプラーザのように、世代が周辺地域と駅前で循環していくことが期待できる」、「10) 「AR、VR を活用して、子どもにも温暖化対策について、興味を持たせる場所、さまざまな人の交流が生まれる場所は作れないのか」とあった。
 - 昨年 11 月 27 日から 12 月 1 日に、オンラインアンケート調査で、「南大沢駅周辺を含む多摩ニュータウンでのコロナ発生後のテレワーク実施率調査」を行った。結果は、「1. テレワークの実施率は、『現在もテレワークを実施している』が 41%で、『以前実施していたが、現在はしていない』を含めると 60%」、「2. テレワークの実施日は週 1 日から 2 日が 54%」、主な実施場所としましては、自宅が 98%を占め、自宅以外では無料の民間スペース、会社の支所・ホテル。「3. 自宅最寄り駅前にテレワーク施設がある場合に、『利用しない』が 65%で、『利用する』を上回るものの、35%が『利用する』という結果となっております。「4. 『今後もテレワークを実施する』が 95%」という結果となった。

回答者の大半が、今後もテレワークを実施する考えであることを踏まえ、実施率は減少しないと考えられる。また、主な実施場所は自宅が大半を占めていることは、現時点ではテレワーク施設が不足していることが考えられ、3の結果等から、今後、最寄り駅前などにサテライトオフィスなどの機能が商業施設などに導入されることで、自宅以外での実施率が増加すると考えられる。

- 1ページの「南大沢スマートシティ事業概要」であるが、目的は「最先端技術の研究とICTなどの活用を図りながら、地域の課題や対応策等について、多くの関係者との調整や、合意形成、および専門的見地からの検討が不可欠である。このため、様々な関係者が参画する南大沢スマートシティ協議会を設立し、短中長期的な取り組みについて検討すること」である。

今年度の内容は、大きく3点ある。1点目は、「①都庁内PTの開催・検討」で、南大沢スマートシティ実施計画について検討している。2点目は、「②協議会、部会の開催・検討」で、地域の課題や先端技術を活用した対策、実施計画について検討している。3点目は、「実証実験の実施」で、自立走行可能なモビリティ等の実験に向けて検討している。

検討体制は、都庁内PTの下に、東京都、八王子市、都立大、地元企業等からなる南大沢スマートシティ協議会を組織し、また、その下には3つの部会を設けている。1つ目が「モビリティ部会」、2つ目が「商業賑わい部会」、3つ目が「情報・その他部会」であり、地域の課題や先端技術を活用した対策、実証実験について具体的に検討している。

実証実験は、高齢者の移動支援を目的として、モビリティにおける自動車いすや自動運搬ロボットの実証実験を実施予定である。

今後、令和3年度・4年度には、継続的な協議会・部会の開催・運営、多面的な課題・対策の検討、多様な実証実験の実施・検証を行い、令和5年度に、段階的な社会実装、他地域への展開を図る予定である。

主なスケジュールとして、「①スマートシティ実施計画」は、3月に取りまとめる予定で、次年度以降、必要に応じて改定を行う。「②協議会」は3回で、第1回目は昨年10月27日に開催し、第2回目は1月25日に、第3回目は3月下旬に予定している。部会は、3部会を各4回、計12回予定している。「③実証実験」は、現在のコロナの状況を踏まえ、2月下旬又は3月上旬に予定している。

2ページは、「協議会・部会の概要」で、部会の検討内容等を整理している。モビリティの課題としては、丘陵地の高低移動の負担軽減、住宅団地から駅・バス停までのアクセス交通の確保、鉄道とバス、タクシー、自転車等の円滑な乗り換え、地区内の快適な移動等が挙げられる。この対策としては、自動車いす、電動シェアサイクル・キックボード等の導入、自動運転EV車両の導入のほか、MaaS、TDM、ITS等の推進が考えられる。

情報・その他の課題としては、コロナ禍における三密回避のための分散化、ICT進展によるワークスタイルの多様化・高度化等が挙げられる。この対策としては、5G・ビッグデータの活用、情報提供による混雑回避・最適な案内誘導、サテライト・シェアオフィス、コワーキングスペースの設置、Web環境の整備等が考えられる。

なお、部会について、第1回目は、地域の現況・課題について、第2回目は、課題を解決する先端技術の活用について検討した。今後、第3回目では、具体的な先端技術の導入に向けた検討、実証実験について、第4回目は、実証実験の評価、今後の検討課題について検討・議論する予定である。

3ページは、協議会メンバーを掲載している。

4ページは、「実施計画の検討の流れ」を示している。背景や目的、対象範囲を踏まえ、

地域の現況・特性を整理するとともに、地域ニーズを踏まえ、地域の課題を設定している。また、地域の将来動向・計画を踏まえ、スマートシティの目標、基本方針、具体的施策、実証実験を検討している。その他、ロードマップや実施・運営体制を検討し、スマートシティ実施計画の策定を行う。

5 ページは、地域の課題として、多面的に整理している。

6 ページは、スマートシティの目標・基本方針であり、本委員会の「まちづくりの方向性や方針」を踏まえて検討している。今後も連携しながら内容・表記について検討していきたい。

7 ページは、具体施策として、先の課題に対応した先端技術の活用について整理している。

最後の8 ページは、南大沢スマートシティの全体イメージを整理している。こうした地区の全体像のイメージを共有しながら、協議会や部会において検討を進めている。

- 「まちづくりの方向性等概要（案）」に、「国のコロナ後の施策」、「都の区域マス」、「各ヒアリングで出た意見」を赤文字で反映した。反映箇所は、まちづくり方針の策定の「背景」に、「第2回検討委員会後、新型コロナ危機を契機として生じた変化に対応したまちづくりの方向性についても追記する」こととした。

「地区の現況」と「求められる新たな対応」の、「求められる新たな対応」に、「新たな感染症への配慮を含めた」を追記した。

さらに「にぎわい」の箇所に、「新たな感染症に配慮した商業施設が求められている」。

「先端技術」の7番に、「新しい働き方」、「サテライト」という言葉を追記した。

「新たな感染症にも配慮をした」という言葉を、「まちづくりの方向性案」の頭に追記した。「まちづくりの方針」の中に、「新たな生活様式」、「ゆとりのあるオープンスペースを活用した」、「新しい働き方・職住近接によるゆとり」、「新しい日常に対応した」を追記した。

「将来像」については、「将来像の実現のイメージ」と見直し、「交流し」、「多様な住まい方・働き方・憩い方」を追記した。各将来像についても、将来像1に、「～憩えるまち～」として、具体的なイメージの中にも、各意見等の言葉を追記した。

将来像2は、「新たな生活様式に対応した」という言葉を追記し、具体的なイメージについても、意見等を追記した。将来像3は、「新たに」という言葉を追記し、具体的なイメージに意見等を追記した。

[井出委員]

- 5Gを活用した東京都のスマートシティ構想の中では、南大沢はすごく重要な位置付けだと本当に思っている。特に住民、東京都、都心から一定距離、地理的に離れていたり、地形のアップダウンの問題だったり、たくさんの団地やそういったものもあるといった意味で、ここでスマートシティ構想をしっかりと作っていくということはすごく重要だと思うが、まずこの東京都でたくさんやられているスマートシティ構想に対して、この南大沢の知見でしたり、活動といったものはしっかり生かされていくのか。
- 特に MaaS とか、情報システムの統合といったときに、やはりこの南大沢の中だけでと完結するはずではないので、都の全体像の構想の中で、このスマートシティの南大沢がどういうふうに生かされていくのかというところが少しよく見えなかった。
- スマートシティ構想の資料のところ、特に資料⑦の南大沢の協議会のところ、こここのところに部会として3つの「モビリティ」と「にぎわい」と「情報」というものが出ている。これを受けて、今、最後の資料の中でも、それに似たようなそういう情報の整理に仕方に

なっていると思う。

その部会、スマートシティのほうのところには、健康的な、安心した長寿社会でしたり、そういったものをいろいろな活動を支えるとか、子育て支援的なものというのが、「商業」、「にぎわい」というところだけなのか。

- 例えば健康面でのいろいろなサポート、情報をつなげていく、あるいは在宅介護を端的に支えるといったことは、すごく情報の共有が大切だと思っているが、このスマートシティの福祉的な部分というところは、どんなふうに見られるのか。
- 「まちづくりの方向性」というところで、全体的に仕事の両立とか、にぎわいとか、そういった経済収益性が上がる部分がすごくたくさん出ていると思うが、ゆとりとか、そういった長寿社会といったときには、この「スマートなまち」とか、「憩えるまち」という視点しか出ていないような気がする。そういう健康長寿社会みたいな視点というのはここにはどんなふうに入っているのか。

[岸井委員長]

- 最初のご質問とその後の健康福祉みたいなものは、スマートシティの中でどう取り扱うのかという話の2つかも分からないが、最初の南大沢スマートシティ事業と今回の話、あるいは南大沢地区以外のところとの関係はどうなっていると理解すればよいか。

[事務局]

- 南大沢スマートシティの位置付けについて、現在、東京都では、重点的にスマート化を図るエリアとして、都心部の西新宿や多摩地域の南大沢など都内5地区を設定し、各取組の情報共有や連携を図りながら事業を推進している。また、南大沢におけるスマートシティの取組が、多摩地域全体に展開できるよう努めるとともに、都内や全国の他地域の参考として生かせる取り組みになることを期待している。
- 健康・福祉の視点についても、協議会や部会で検討しており、5ページの地域の課題では、「医療・福祉」分野としての課題を整理し、対応を検討している。まだ検討を始めたばかりであり、今後、健康や子育て等も含めて具体的に議論していきたい。

[井出委員]

- 資料⑦の地域の課題のところ、確かに「多様性」のところに「医療・福祉」と出ているが、これを見ると移動。そこにアクセスするための通院負担の軽減とか、モビリティの観点から書かれていて、そもそも健康になるために、いろいろな情報共有だったり、いろいろな実証実験をやったりということが当初この委員会でも話が出ていたと思うが、そうしたヘルスケアシステム的なものが少しまだ出ていないかなというような印象を受けがちなので、もう少し資料⑧に、「長寿社会を実現する取り組みの促進」といったところで、遠隔医療だけではなくて、もう少し書き込んでいただきたいと思う。

[岸井委員長]

- スマートシティの協議会の中でいうと、もし入れるところすれば、あえていえば、部会Cの「情報」のところか。「商業」、「にぎわい」、「モビリティ」だけではなくて、住宅地ですから、基本にお住まいになっていらっしゃる方がいっぱいいらして、その地域の方たちの健康だとか、福祉のサービス、あるいは情報管理といったものも含めて、このスマートシティで考えられないのかと。ヘルスケアの話にもつながるが、部会Cの「情報」のところでもいいのか。

[事務局]

- ご意見のとおり、「情報・その他」部会を中心に検討している内容である。今後も内容に応じて、他部会とも連携しながら議論していきたい。

[岸井委員長]

- ヘルスケアに関しては、他の団体でも、スマートウェルネスといった表現で、歩くポイントとか、あるいはさまざまな医療関係の情報の蓄積でデータ分析をしたらどうかとか、いろいろと出ているので、ぜひ他のところのものも参考にして、多摩ニュータウンというからには、やはり住宅がしっかりサービスができていて、そこにお住いの方の健康も十分にケアできているということがとても大事な要素だとしていただきたい。

[瀬田委員]

- 資料⑧の将来像の実現イメージが3つあって、非常にそれぞれ重要だと思うが、将来像1の「憩えるまち」にゆとりがすごく強調されていて、非常に重要だと思っている。多分もう少し、にぎわいもあるが、ゆとりとにぎわいが両立するようなまちをもっと強調してもいいと思う。
- 京王線沿線だと新宿があって、本当のこれまでのにぎわいと新宿に出ていたりしていたのが、少し行くのはどうかなといったときに、もちろん家にいなければいけないのかもしれないけれども、少し新宿ほどの人ごみでなくても、にぎわいがというか、少し楽しめる町になっていて、あまりソーシャルディスタンスが侵害されるほどきつきつではない、三密は何とか回避できるという、その辺が今、すごくまちとして求められていると思う。
- 実際、人口の動向というのも、23区のかなり外側のほうが今、結構人口が増えており、人流もやはり結構郊外の駅で伸びているような動向が、全部ではないが、結構あるので、一応南大沢にとってはチャンスなのかなと認識している。
- せっかくそのチャンスがあるのであれば、少しそこはぜひチャンスをつかみたいな、勢いのある将来像が、3つあったら1個ぐらいあってもいいのかなとっていて、それに比べると今の将来像1というのは、もともとゆとりは結構あるような気もするのですが、そこをもう少し攻めてもいいのかなと思いました。
- 具体的にどう変えればいいのかは、まだあまり思い付かなくて、「ゆとりとにぎわいの両立」とか、「三密が回避できながら楽しく過ごせるまち」とか、少しまだこなれていない表現しか思い付いていないが、少しご検討いただければと思う。

[岸井委員長]

- 今の瀬田委員の意見でいうと、例えば将来像1の①、②、③とあるその上のほうに、「意欲的でゆとりのある拠点形成のための機能の複合化」というものは、その全体に掛かってくる文章がここに何か入るといったことか。

[事務局]

- 将来像1の「憩えるまち」の下にある言葉の見直しということで検討いたしたい。

[瀬田委員]

- 商業施設というか、人がそれなりにやはり集まってくるのだけれども、でも密になり過ぎないというほどよいところをしっかりと目指せる環境があるというのが南大沢みたいなところが通じればいいので、②以下というのも関係なくはないが、この辺は基本的にこういう方向でそれぞれ整備を目標として設定すればいいと思う。

[岸井委員長]

- 先ほどヘルスケアのご意見などは、将来像2の②のところに、「長寿社会を実現する取り組みの促進」というものがあって、そこに「先端技術を活用した健康で安全な暮らしができるようなまち」というところをもう少し膨らませるとか、あるいはこの下のアクセシビリティだけの議論ではないというところを、うまく描き込めると井出委員の趣旨に近づく

と思う。

[岸井委員長]

- 南大沢スマートシティと呼んでいるものは、多摩センターとの関係はどういうふうに捉えておけばいいか。多摩センターも入っているという理解がよいか。

[事務局]

- 現在は、南大沢駅周辺地区を対象にして検討しており、現時点では、多摩センターや多摩市は入っていない。今後、この取り組みがある程度まとまったら、多摩ニュータウン中心とした他地域に広げていきたい。

[岸井委員長]

- 例えば「サテライトオフィス」とか、「シェアオフィス」と書いてあるものは、南大沢にあるべきだという感じの意見でまとまっているということか。多摩センターではなく、南大沢にあるべきであるという、要はスマートシティの議論になっているという理解がよいか。

[事務局]

- 短期的には、まずは南大沢駅周辺地区での取組を考えている。今後、長期的な取組などにおいて、その範囲で納まらない場合は、エリアを広げながら検討していきたい。

[岸井委員長]

- 5Gのようなものが出てくるのも、南大沢からということですか。だからそこから考えるということなのでしょう。

[太田委員]

- 「住民等からの意見の記録の用紙」に関して住民等というのは、どれぐらいの方からの意見が全体としてあったのか確認したい。
- 資料⑧で、全体としてやはり「ゆとり」とか「新たに」という言葉がすごく強調されているように感じる。
特に、資料④の中の各委員からの発言の中にも、6と7で、「にぎわいではなくオープンスペース」とか、「なんとなく人が集まる、集いやすい場所・空間が必要」だとか、「にぎわいはこれからまちづくりの観点では重要だけれども、今は難しい」というような発言がある中で、この「にぎわい」という言葉と「ゆとり」という言葉の並列が、非常に難しく感じられる。そういう中では、この将来像の1のところについては、1つの例でいえば、「多様な機能が駅前に集積し、歩きやすく、ゆとりと活力が生まれるまち」等々で整理ができないか。
- 「誰もがゆとりを持ち、自分らしくポジティブに働ける環境整備」という部分があるが、「時間や場所にとらわれない柔軟な働き方を可能として、誰もがゆとりを持ち」と、またここで「ゆとり」という言葉が出るが、ここのは、その後続く、「自分らしくポジティブに働ける環境」ということでつながるのであれば、「誰もが豊かさを感じる」とか、別の表現に少し整理をした中で、全体としての将来像を整理したほうが分かりやすい。
- また「新たな」という言葉も、たくさん強調されているが、そのこのところの表現方法を全体として見たほうがいい。例えば将来像3のところも、「国内外に多様な人々が集い、新たに交流し」という部分のこの「新たに」というのはどういう交流なのかということが少し分かりづらいので「交流」という言葉は、非常に重要だとは思われるが、その「新たな交流」というのがどういう部分での交流をこの南大沢の中では表現されていくのかというのが少し分からない。

[事務局]

- 4名からご意見をいただいております。主な内容をこちらの記録用紙にまとめています。

[岸井委員長]

- 「新たに」は、どういう意図で書いているのか。

[事務局]

- 「新たな生活様式」であるとか、「新しい働き方」という言葉が非常にキーワードになっている。将来像3の「新たな交流」の表現についても同じような意味合いで、「新たに」という言葉を付けている。

[岸井委員長]

- あとは「にぎわい」を「活力」に換えたかどうかとか、具体的にいくつか提案もあるので検討いただければと思う。

[太田委員]

- 住民等の意見が4名というのは、なかなか少ないなというのを率直に感じた。
- 「今回の新型コロナの危機を契機としたまちづくりの方向性を追記する」という部分は、非常に今回重要だと捉えているが、資料⑧の「新たな感染症に配慮したまちづくりの方向性」というと、今後出てくる感染症がまだ分からない中で、それに配慮した商業施設をどうのこうのという表現は、今後これを読まれた方がどういうふうに捉えるのかなと気になる場所である。冒頭の背景のところできっかりと書き込んであるので、あえて「新たな感染症」という言葉で、ここで追記するというのは、いかがかなと感じる。

[岸井委員長]

- 「新たな感染症に配慮したまちづくりの方向性」と、ここまで書かなくてもいいのではないか。「まちづくりの方向性」の前提にそういう背景があることは書いてあるので、新たな感染症だけに配慮しているわけでもないと思えば、書かなくてもいいのではないかなと思う。

[八嶋委員]

- 「背景」にも書いているが、第2回検討委員会後、新型コロナが、また急速に感染して、また今、2回目の非常事態宣言が出されているという状況の中で、あえて「背景」の中に入れた。そういう意味では下のほうに、「背景」のところ総論を述べて、その下の各論のところこういうようなことを具体的には目指していきますというような趣旨で置いているので、今、岸井委員長からもあったように、さらに強調して大きなところに入れる必要までもないのかなと思う。

[井出委員]

- 資料⑧の「将来像のイメージ」はすごく重要だと改めて感じたが、一番気になるのが、「人々が出会い、交流し」のところで、「働き方、憩い方がアップデートされ」と、アップデートというイメージと少し違うのではないかなと思う。本当にSociety5.0みたいに、世界が改革を遂げられるかどうかというその岐路に立っている状態なので、それを「新しい活力」だったり、というものに向けていこうという都の取り組みだと理解している。アップデートというのは、少しマイルド過ぎると思う。

[岸井委員長]

- 「人々が出会い、交流し、新たな技術によって多様な住まい方・働き方・憩い方がアップデートされ、活力や魅力に満ちたまち」という、アップデート程度では、少しスマートシティにならないのではないかなという感じか。言葉遣いで、アップデートに換わる何かいい言葉があるとよいと思う。

[中山委員]

- 将来像 2 の「スマートなまち」の部分で、地域の強みを生かしました大学とか研究者などによる起業などを促進していく、いわゆるイノベーションのまちづくりの重要性がこの柱の 1 つになっているわけだが、資料⑧の修文の中で、前回は、この①の「先端技術を取り入れたまちづくりの推進。大学・研究所の集積を生かした産学公連携の取り組みの推進」の中で、具体的に都用地を活用して、先端技術の導入、ビジネスマッチング、起業とビジネス環境の整備・促進ということだったのですが、そこが一般的なサテライト、シェアオフィスなどのビジネス環境ということで、若干、一般的な記載になってしまった。
- 南大沢の強みというのが、大学とか、研究所の集積でもあるし、そこでコロナ後であっても、リアルな人々の交流の中で、そういうものが生み出される、共有スペースとしてそういうものも備えたサテライト、シェアオフィスが必要ということだと思うので、もう少し具体性を出したほうが分かりやすいのかなと思う。
- 将来像 1 の②のところの「生活と仕事の両立の支援」ということで、課題の中でそういうサテライト、シェアオフィスが不足しているというのは、ここにも再掲されているが、以前はここに子育て世代がたくさんいらっしゃるということを背景に、子育て支援施設などの整備も併せて行うということが書いてあった。将来像 3 の「居場所」、高齢者が多い中での居場所づくりとか、そういう世代の共生につながるころなので、そこもなくなったのは少し残念と思う。

[岸井委員長]

- 1 点目のほうは、先ほどの井出委員の意見にもやや通じるころがあって、もう少しこの部分を強調して、大きく南大沢が変わっていくということを強く打ち出せないかということに近い。
- スマートシティという看板を掲げて、多摩ニュータウンの中でも、南大沢から始めるという先ほどの説明、しかも大学があって、官民連携、公民連携で、みんなでやろうしているということをもう少しうまく強くいえないかということになってくると、①のもう少し上の段階の、先ほどの将来像 2 の全体像を説明するところ辺りにうまく書き込むことがとても大事。それを受けて、その下に、そういった言葉が入ってくるということ。
- 将来像 1 のほうのところについては、むしろ少し書き分けをしたほうがいいかなという、先ほどの健康とか、ヘルスケアとか、そういうことも関係をするし、職と住がよりうまく迎合し合うような、そういう環境を作っていくということが表現されるようにできないか。

[岸井委員長]

- スマートシティの議論がどこまで、今回のこのわれわれがやろうとしているまちづくりの方向性に書き込めるかという辺りについて、どういう見通しを持っていけばいいか。かなり細かなところまで議論が進んだものが降りてくるというそういう期待をされていていいのか、われわれのほうはもう次の段階では、2 月 18 日に委員会をやって、パブコメに入ってしまうので、こういうスケジュール感で行ったら、スマートシティのほうの詳細は決まらないという理解でいたほうがいいのか。

[事務局]

- 少しスピードが違うので、南大沢スマートシティ協議会のほうは、地域の課題を挙げて、それについてどのように先端技術で解決していこうかという視点で協議されている。
- 私どものまちづくり方針は、2040 年代を見据えての議論ということで、スマートシティ

協議会が検討しております細かな課題の解決について、この方針に書き込むというよりは大きな視点で考えていきたいということで、スマートシティの協議会の動きを見ながらも、大きな流れを書いていきたいと考えている。スマートシティ協議会の議論については、参考にしながら、こちらはこちらとしてどうあるべきかというふうに取りまとめをしていきたいと考えている。

[岸井委員長]

- まちづくり方針の方向性のところには、どう書くかは少し考える。かといって、ディテールまでは書けないしというところで、何かうまいつなぎ方をするということしか多分できないと思っている。

[八嶋委員]

- 今日スマートシティ協議会の事務局に出席をしてもらって、内容について説明をしてもらっているということで、今後のスケジュールのほうも紹介はしていただいている。
- どうしてもこの南大沢のまちづくり方針のほうが、仕上がりとしては、いったん先に締めて方針として公表するという時間軸である。今のところ、書けるものについて、今日、説明もした、南大沢スマートシティ事業概要の中から、いくつかピックアップをして、この方針の概要に掲載をしているというところである。
- また来週には協議会も開催予定だという紹介もあった。また、こちらの内容をフィードバックしてもらって、そこでまた意見がいただけるかと思うし、限られた時間の中で、お互い連携し合いながら、情報交換をよく密にしながら、取り入れるところを取り入れたいと考えている。

[岸井委員長]

- 都立大学がキーパーソンだが、大学の中の意思決定もいると思う。

[八嶋委員]

- 都立大学には、直接、あるいは総務局所管なので、逐次、情報提供はして、こちらのほうとも連携しながらやっていきたいと思っている。

[竹宮委員]

- 大学を代表しての意見ではないが、個人的に今、スマートシティのところでも少し気になったことがある。例えばスマートシティモビリティ分科会で、かなりこういう物が実証的にできるようになってきた、非常に数が増えてきたという場合に、スマートシティの具体的施策のイメージ図、8 ページのところ自動運転のバスターミナルのような場所が書いてあるのですが、こういう物が足りなくなってきた、もう少したくさんこういうアクセスが必要になるということが起きる可能性もある。そういうことを見据えたまちの骨格は、ちゃんと作っておいたほうがいい。
- しかし具体的に書けないので、例えば将来像 2 の「スマートなまちづくり」のところ「持続可能な環境が創出される」というところに少し加えていただくような形で、そういう「持続的な発展が可能な骨格を作る」みたいなことがあってもいいかなと、個人的に考えた。

[岸井委員長]

- この範囲で決めたものはちゃんと受けるし、その次の段階のフェーズもあるのだというならそれでもいい。公募する段階までの間の時間的なスケジュール感でしようけれども、今回のわれわれのまちづくり方向性の議論の中では 22 年度、1 年かけて、そういう辺りはうまく積み上げて、後々「しまった」とならないように、やっていただくのがいいと思う。

[事務局]

- コロナに関しても、この方向性の中で、「新たな感染症」とかという言葉は何度も入れているが、コロナだけではなく、災害等も考えなければいけないので、あまり個別に細かなところは書かずに大きな流れとして捉えていきたいと考えている。

[岸井委員長]

- 今日のいろいろな意見を少しかみ砕いて、2月18日はどんな形で出てくるか。方向性の概要を書き下したものが出てくるのか。

[事務局]

- まちづくり方針の素案という形でまとめて、提出いたしたいと思っている。